

令和元年度 佐賀県立佐賀工業高等学校 学校評価計画

<b>1 学校教育目標</b>	<b>2 本年度の重点目標</b>
歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。 校訓 「至誠剛健」(誠実で心身ともに逞しく)	○ “ものづくり” から “者(ひと)づくり” そして “未来(あす)づくり” ア 規律ある高校生活の定着 イ ものづくり教育の推進 ウ 部活動の充実 エ 開かれた学校づくりの推進



<b>3 目標・評価</b>				
<b>① 学力の充実向上(日々の学習、学びの基礎診断に係る支援体制の確立)</b>				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●学力向上	・学習指導の充実	・わかる授業のための授業力向上を推進する。 ・考査前後などに教科内の検討会を行う。	・全教科で研究授業の相互参観を行う。 ・定期考査問題を教科内で検討し、50分の考査問題として論述問題等、質・量の検討を行う。 ・教科内で答案の誤答分析を行い、不得意とする分野を洗い出し、授業に反映させる。
		・家庭学習の定着	・各考査における欠点数を10%減らす。 ・基礎学力講座のテストの正解率70%を目指す。	・教科間で連携を取り、計画的な週末課題を課す。 ・部活動指導者に、定期考査前の学習時間が確保できるように協力を依頼する。 ・テスト範囲等を生徒に認識させ、計画的に学習への取り組むように指導する。
		・資格取得の推進	・各科の重点資格と基礎資格の合格率5%増を目指す。 ・ジュニアマイスターのゴールドとシルバー取得者の5%増を目指す。	・全員受験の基礎資格の指導徹底と補習体制の強化を図る。 ・担任や科と連携して資格取得者を増やす。 ・各科の重点資格取得において、ものづくりマイスターを活用した指導の強化を図り、ジュニアマイスター取得者数の増加を目指す。
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・教科指導の改善	・全教科でICTを活用した授業展開を実践して生徒の基礎学力向上を図る。 ・全職員が電子黒板を活用した授業ができるようにする。	・電子黒板・学習用PCを活用し、わかりやすい授業に取り組む。 ・各科で教材作成を行ったデータの共有化を図り、各教科で年間に1回のICT活用研究授業を実践する。
<b>② 生徒指導の徹底(規範意識、挨拶、礼儀、マナーの向上)</b>				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	○生徒指導	・基本的生活習慣の確立 ・佐工生としての誇りを持つ ・規範意識を常に保つ ・道路交通法の遵守	・基本的生活習慣を身につけることができるようにする。 ・問題行動の事前予防をする。 ・特別指導件数の0を目指す。 ・交通事故の20%減を目指す。	・定期的な校外巡視を実施して、生徒の様子を観察すると共に、外部からの情報収集を行い指導に役立てていく。 ・遅刻、無断欠席に対する指導を担当・科と協調して行う。 ・挨拶・服装の指導を全職員で行い、より良い生活習慣の確立を目指す。 ・問題行動の事前予防や交通事故防止を集会や講話、文書等を通して強化する。 ・生徒本人だけでなく、家庭や関係機関との連携をすることで多様な指導を実現していく。
教育活動	●いじめ問題への対応	・早期発見、実態把握に向けた全校的な体制の推進 ・予防的相談体制の確立	・生徒一人一人が安心して安全に学校生活を送ることができるようにする。 ・学級の雰囲気良くし、生徒同士の交友関係を円滑にし、一人一人の生徒の居場所を作るようにする。 ・一人一人にとって居心地の良いクラス作りを目指す。	・定期的にいじめアンケートを実施し、情報収集に努めるとともに、アンケート実施をはじめ、全校集会やHR等を通じていじめへの啓発活動を徹底する。 ・調査結果をもとにした職員間での情報交換やケーススタディ等を実施する。 ・いつでも生徒が相談できるような環境作りを努める。 ・いじめ対策委員会を敏速に開き、関係機関との連携を図る等、早めの対応に努める。
<b>③ 進路指導の充実(満足度の高い進路の実現)</b>				
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策
教育活動	●志を高める教育	・自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・将来のビジョンを明確に持たせ、基礎学力や基礎技能の向上を目指す。 ・より高い進路目標の設定に向かい、自己研鑽を行い自らを成長させることを目指す。	・授業や学校行事等に外部講師を招聘した講話や実技指導を通し、夢や目標について自ら考えさせる時間や場面を設ける。 ・自分の成長が見える形になるよう、実施した事・検査結果・資格取得等をポートフォリオ形式でファイリングさせ“目に見える形”で残るようにする。
教育活動	○進路指導	・進路希望の達成	・進路意識の高揚と職業観・勤労観の育成などキャリア教育の推進を図る。 ・就職試験の一次合格率を上げ、進路決定率の年内100%達成を目指す。	・進学補習等で基礎学力向上に努める。 ・1年生の職業人インタビューや2年生のインターンシップ、また3学期実施の「進路ガイダンス」等の実施で、職業観・勤労観の育成を図り自らの可能性を探る。 ・進路指導部と担任の連携を密にして、生徒の能力・適性と希望にあった進路先の情報提供と指導・助言に努め、工業技術者の育成を図る。 ・できる限り多くの企業訪問を実施し、確実に求人票を獲得して生徒の選択肢を確保する。 ・面接指導の充実を図る。(集団討議訓練の実施) ・企業訪問報告会を実施する。(6月中旬、3月下旬) ・SPI試験(中間・期末考査)の実施に加え、小テストを1学期に9回実施する。

④ 特別教育活動の推進（主体的に活動する力を養う）				
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	●健康・体づくり	・部活動入部の推進	・部活動入部率を100%に近づけ、学校の活性化を図る。	・部活動PRビデオを活用してより興味をもたせる。また、職員の一部活動体験談を通して、積極的に入部するように勧める。
		・食生活と生活習慣の自己管理	・健康の保持増進や食の安全に関心を持ち、基本的な生活習慣の確立を図る。	・「保健だより」を発行して、健康面や栄養面の情報を提供する。 ・健康診断結果を通知して、治癒に努める意識を持たせる。 ・朝食実態調査を活用して、食事の大切さを考えさせる。
教育活動	●心豊かな生徒の育成（心の教育）	・クラス・学年・学校への帰属意識を持たせ、思いやりのある生徒の育成	・生徒の状況把握に努め長期欠席や断続欠席者の10%減少を目指す。	・クラスマッチ、佐工祭等に丸となって取り組める風土づくりに努める。 ・生徒と会話を密にして生徒の動向を理解し、副担任・科長・管理職と連携を取り、早めの対応に努める。 ・家庭訪問等により保護者と連携を密にし、三者での話し合いの場を多く持つように努める。
		・ボランティア活動の推進	・校内及び学校周辺の清掃活動（多布施川沿いゴミ拾い・草刈り、地域のカーブミラー清掃等）の実施する。	・奉仕作業の意義と目的を十分に理解させ、自主的・自発的・積極的に参加できるような指導を行う。
		・読書活動の充実	・生徒一人当たりの貸出冊数3.0冊以上を目指す。 ・図書館活用の奨励する。	・「図書館だより」「新着図書案内」を随時発行し、情報提供に努める。 ・さまざまな工夫を施し、図書館への来館を促す。
教育活動	○グローバル教育の推進	・グローバル社会へ対応できる豊かな国際感覚とコミュニケーション能力の育成	・各教科、各行事を通して、国際感覚を身に付けさせる。 ・順天工業高校（大韓民国）との交流を通して、他国の文化を理解し、国際的視野で日本を見つめることが出来る感覚を養う。	・各教科の授業において、生徒の「グローバルな視点」と「国際的感覚」を育成するための、授業実践を行う。 ・順天工業高校（大韓民国）との交流の際には、全ての生徒が関わりを持つ計画を立案し、十分な準備と事前学習を行い、「国際交流」を行う。
教育活動	○安全教育	・工業科の実習や課題研究における安全教育の徹底 ・安全点検の徹底	・実習や課題研究において危険防止や安全教育の時間を設ける。 ・3年に一度の実習棟の安全診断を実施する。 ・毎月1回以上校内安全点検を実施する。	・授業の中で細部にわたり、生徒だけでなく職員にも安全意識の向上を図る。 ・工場安全診断で指摘された箇所の改善を図ることにより、生徒に5S活動や安全衛生に対する基礎知識と意識を身に付けさせる。
教育活動	○地域との連携	・ものづくりや部活動をととした地域との連携	・ものづくりや部活動をととして、地元小中学生に工業高校の魅力や興味を喚起する。	・地域の中学生との交流連携を図るために、体験入学時の実習見学と体験を充実していく。 ・「さが桜マラソン」では部活動を中心に協力していく。また、文化部等を中心にして、地域の催しや行事に積極的に参加する。
教育活動	○主権者教育	・教科指導を通して基礎知識を学び、クラス討議や生徒会活動に対し積極的に参加する	・公共的な事柄に自ら参画しようとする意味や態度を育てる。	・宿泊研修などの特別活動において、他者と共同作業を行う中で自己の意見と他者の意見の合意を図る。 ・模擬裁判を行い、他者との協働的に諸問題を追求し意見合成を図る指導を行う。
教育活動	○佐賀を誇りに思う教育	・佐賀県のことを学ぶ	・佐賀県の良さを見出し、佐賀を誇りに思い、愛着を持つ生徒を育てる。	・「佐賀語り」を読む時間を確保し、佐賀県の良さを再発見させる。 ・全校集会で講師を招き、佐賀の良さについての講演を行う。
⑤ 教育相談の充実（心の教育を大切にする）				
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	○教育相談の充実	・担任等と相談係との連携 ・スクールカウンセラーの有効活用	・担任等と相談係との連携を図り、生徒の状況把握に努め、適切な対応をする。 ・スクールカウンセラーを有効に活用する。	・教育相談週間を設定し、担任と生徒との面談を実施する。 ・保護者と教職員との連絡を密に行う。 ・スクールカウンセラーと生徒、保護者及び教職員との面談を実施し問題解決を図る。 ・教育相談校内研修を実施し、予防的教育相談を確立する。
⑥ 人権・同和教育の推進（人権尊重の精神と態度を養う）				
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
教育活動	○人権・同和教育の推進・支援	・校内からあらゆる差別や人権侵害をなくす取り組みの実践	・生徒一人ひとりがあらゆる差別や人権侵害を許さないという態度を育てる。	・学期ごとに職員同士での学習会を行い、差別や人権侵害を許さない意識を職員が持ち、生徒の指導にあたる。 ・外部講師を招聘し生徒・職員の人権意識を高める。
⑦ 学校運営の改善				
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・教職員の健全な勤務時間の適正化	・学校行事精選、校務の整理を推進する。 ・会議内容の明確化、資料の事前配布により会議時間の削減を図る。 ・部活動実施計画に基づく時間外勤務時間の軽減 ・年休消化率の向上	・現状に即した取り組みを検証し、常に校務を見直す。 ・共有フォルダを利用し、様式・業務データの共有化を行い、効率的な業務遂行に努める。 ・部活動の実施計画と休日を確認し、週休日勤務は可能な限り振休を与える。 ・年休を取得しやすいような事務手続きを構築する。
		・事務職員の学校運営への積極的参画と教員との連携促進	・事務職員の専門性を生かし、経営的視点を持ちながら学校運営に積極的に参画する。	・職員朝礼や業務上の情報共有を行い、業務の進捗等を把握して職員間のフォロー体制を強化する。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目				
領域	評価項目	評価の観点 （具体的評価項目）	具体的目標	具体的方策
学営校経	○学校の経営方針	・学校経営ビジョン・本年度の重点目標の周知	・学校教育目標の周知徹底する。	・教育目標や重点項目について職員の情報発信の意識を高め、タイムリーで積極的な情報発信に努める。
教育活動	○教育後援会活動の活性化	・後援会総会・役員会・評議員会等における保護者の出席率の向上	・教育後援会総会において45%以上の出席率を目指す。	・総会開催を保護者要望の週休日に実施して出席率の向上を目指す。 ・総会時にICT利活用授業参観や担任懇談会を実施し、保護者の参加意欲の向上を図る。 ・教育後援会役員会と評議員会の協議や業務内容を精選する。
学校経営	○接遇・応対	・事務室窓口に来られる来客者・保護者等に対する窓口対応 ・事務室職員の電話対応	・窓口にくらまれる来客者・保護者等に対して親切かつ的確丁寧に対応する。 ・電話対応を迅速・丁寧・親切に行い記録を残す。	・来客者には学校に対する不快感・不信感を与えないように臨機応変に対応する。 ・電話対応は、内容等を明確に理解し、メモを取り、不快感を与えないよう迅速丁寧に対応する。また、苦情の電話には特に真摯な態度で接し、内容を各主任・教頭に連絡し連携を図りながら、迅速な対応に心掛ける。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目